困らせてはいかんと思った

今日もあの子会えた。
一人部屋にいると、いつも、
夜、あの子の事で、
僕の頭はいっぱいになる。

去年の秋の英語の暗唱大会。
眼帯をしていた朝の通学電車の中。
眼帯を取ってからまた同じ朝の急行電車。
初めて、同じ三条京阪のバス停にいると、
わかったのは、去年の、暮れもせまる十二月。

中学二年に北区紫野の大徳寺の家から、
この伏見桃山の向島に引っ越して来て、
はや、一年半が過ぎて、やっと、
僕はあの子の存在を知った。

この一年半、毎朝、隣りのバス停にあの子はいたのだ。
二年生の時は、僕は全く関心もなかった。
お互い電車でも一緒の時もあっただろうに。

中学二年の時、初めて、三条京阪のバス停から
学校へ行った頃の自分を思い出す。

その時、自分の隣りにあの子がいても、
あの子も、僕も全くの知らぬ顔だった。
そう思うと、実に不思議に思う。

これも運命のなせる業か。